

# 「キャリア開発演習 I」の感想文

留学生教育センター 特任講師  
修士（法学） 狩野直樹

今回は私自身が担当した1月25日の授業内容「小論文対策: 行政の役割」を再挑戦する機会でした。しかし、結果として授業のほとんどを中島総長先生にお任せする形になったこと、大変申し訳なく存じます。同時に己の未熟さに情けなくなりました。

今回の内容は学生にとって難しかったと思われます。それは「行政」という言葉が広範囲を網羅していること、また学生がいつも学んでいる分野からは離れた行政学や経済学の概念が教科書にちりばめられたことに起因します。

しかし中島総長先生はこの漠然とした「行政」という言葉を「公務員」と置き換えてご説明になりました。すなわち、学生諸君が公務員になったらこのような事態——教科書の言葉を借りれば、抽象的な法律を具体的な状況に適用して妥当な判断を下すことを期待されている——に直面するのだ、と学生の興味を一気に引きつけ、学生に「自分のこと」として考えるよう促したのです。総長先生は「教員は学生の魂に火を点ける存在でなければならない」と授業前の僅かな時間に心構えを説いてくださいましたが、それが実践された瞬間でした。

小論文対策は暗記科目より指導が難しいと思っていましたが、総長先生は重要な箇所にアンダーラインを引かせ、その部分を中心に学生に熟読させて理解を促進するという手法をとっておられました。小論文を執筆する際には、アンダーラインをうまく繋げることで出題者が問うている基礎的知識を有していることを示すことができますし、具体例などで独自性も発揮すればなおよい文章になります。こうした訓練を繰り返し、頻出テーマに関しては、自分の書いた文章を暗記するまでにしておけば、本番の試験にも安心して臨むことができる、というのが総長先生の教えでした。

今回は、中島総長先生に直接ご指導賜り、心より御礼申し上げます。反省を活かし、今後の小論文対策授業を改善することをお約束して結びの言葉といたします。